



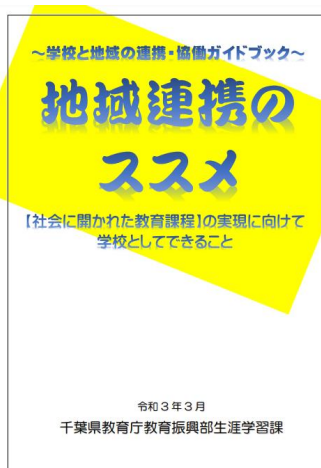
南房総のハズシ

地域連携のススメ!

【社会に開かれた教育課程】の実現に向けて学校としてできること

星祭の候、各学校におかれましては、地域連携の充実に向けて、様々な取組をされていることと思います。

さて、本号では、学校・家庭・地域との連携がより組織的・効率的な連携となるよう『地域連携のススメ』を御紹介します。地域連携の意義や効果をはじめ、活動の流れや手引き等について、まとめてありますので、是非御活用ください。



『地域連携のススメ』は、令和3年3月に千葉県教育庁教育振興部生涯学習課が作成した、学校と地域の連携・協働を進めていくためのガイドブックです。

構成は、

- I 地域連携の意義と効果
- II 活動の進め方
- III 組織的・効率的な連携のために
- IV 参考・引用

の4つからなっています。県HPからは、本ガイドブックや申請書様式のダウンロード、研修動画の視聴ができます。



I 地域連携の意義と効果

ここでは、(1) 地域連携の意義 (2) 社会に開かれた教育課程 (3) 地域連携の効果について書かれています。(3) 地域連携の効果について御紹介します。

地域と学校が連携・協働することによって子供・学校・地域へさまざまな効果が期待できます。

【子供へ】

- ・地域の人から愛情を注がれることにより、自己肯定感や思いやりの心が生まれる。
- ・地域の人たちと一緒に学ぶことにより、地域への愛着や担い手としての自覚が育つ。
- ・多様な人との関わりや多くの体験をすることで、社会性が育つ。 等

【学校へ】

- ・地域の人との関わりが生まれ、地域と学校の双方向の理解が深まる。
- ・地域の人々の専門的な知識・技能や地域資源を教育活動に生かすことができる。
- ・子供の教育に対する責任や役割を地域と学校で分かち合うことができる。 等

【地域へ】

- ・自分の経験や知識・技能を生かすことで、自己実現につながる。
- ・学校や子供への関わりを通して、地域住民同士のつながりが生まれる。
- ・学校が地域住民の社会参画の場となり、地域の活性化につながる。 等



具体的には、地域住人による登下校に関する対応、放課後から夜間における見守り、校内清掃や部活動の補助等々、地域連携は「学校における働き方改革」を踏まえた活動としても非常に効果的です。

II 活動の進め方

ここでは、(1) 地域連携活動の内容と流れ (2) 地域連携活動の手引きがまとめられています。(2) 地域連携の活動の手引きについて一部御紹介します。

(2) 地域連携の手引き

1 計画の作成及び見直し

①現状の把握と課題の明確化(様式P11)

自校の現状に合わせた計画を立てるためには、**教育目標・児童・保護者・地域の実態を踏まえるとともに、前年度の成果や課題を把握してPDCAサイクルを作ることが必要です。**

【例】地域連携チェックシートの活用

地域連携活動の事後評価や学校評価の活用

ミニ集会等を活用した地域住民やボランティア

との情報交換 等

②地域連携に係る全体計画の作成・見直し

③地域連携に係る年間計画の作成・見直し



	地域連携に関する評価項目	評価	対応方法
1 学校全体の取組について			
①	地域連携に関する計画や年間活動計画を作成し、全教職員間で確認した。		
②	地域連携に関する校内研修を位置付けて実施した(実施予定である)。		
③	地域連携に関する必要な情報を、適切な機会に保護者や地域住民へ伝える工夫をしている。		
④	地域連携に関する計画や活動について評価を行い、その結果を教職員や保護者、地域住民等で共有する工夫をしている。		
⑤	地域連携の学校の窓口を校務分掌に位置付ける等明確にしている。		
⑥	地域連携担当の教職員を複数名配置している。		
⑦	地域連携担当の教職員の職務分掌を明確にしている。		
2 教職員の取組について			
①	教職員は、地域の特色について理解している。		
②	教職員は、保護者や地域住民とのコミュニケーションを積極的に行っている。		
③	教職員は、地域連携の目標や努力、具体策を理解し、自分の担当教科等に地域連携活動を取り入れた授業を実践している。		
④	教職員は、地域と連携を図った授業や活動の成果を積極的に保護者や地域住民へ伝えている。		
⑤	教職員は、活動について評価を行い、その結果を次へ生かす工夫をしている。		
⑥	教職員は、地域学校協働活動やコミュニティ・スクールについて理解している。		

P11

【学校を核とした県内1000か所ミニ集会】との関連について

ミニ集会の趣旨は、以下のとおりです。

- 1 地域住民と本音で語り合い、地域住民の声を学校運営に生かすことで、開かれた学校として、地域における学びや地域づくりの拠点としての役割を果たすことを目指す。
- 2 学校を中心として、家庭と地域社会が互いに理解し合い、子供の教育に協力し合う環境づくりを目指す。
- 3 学校を核として、現在失われつつある地域コミュニティを構築し人として幸せを感じられる環境づくりを目指す。

ミニ集会の実施を通して、地域連携を進めていくという手立ても考えることができますので、別添【ミニ集会】の「実施要項」や「実施の手引き」を御参照ください。

III 組織的・効率的な連携のために

ここでは、(1) 学校の窓口となる地域連携担当の明確化、(2) 地域連携担当の役割分担、(3) 校内委員会の設置についてまとめられています。詳しくはガイドブックを御覧ください。
地域連携を組織的に進めるようにするためには、学校の窓口となる**地域連携担当を決め、地域の方へ明確にすることが大切です。**また、**地域連携担当を複数**にすることで、業務を分担することができるため、効率的な活動ができるようになり、「学校における働き方改革」にもつながります。

南の社教の

「読書に乾杯♪」 Vol.2

昨年度の「ズームイン!南房総」に続き、今年度新たにスタートした新シリーズのVol.2です。

「読書に乾杯♪」は、ステキな読書をめざして、南の社教がおすすめの本を紹介するコーナーです。

今回はどんな本が登場するのかな?それではいきましょう「読書に乾杯♪」。

からす たろう



やしま たろう 文・絵

本日、紹介する本は、「からす たろう」やしま たろう文・絵(偕成社)です。

村の学校での出来事を通して、人の生き方や教育の本質について、考える機会を与えてくれる作品です。

今現在、教育について悩んでいる方、目の前の子どもたちとどう向き合っていたらよいか迷っている方は、是非とも手に取って読んでみてはいかがでしょうか。

新しい風、生涯学習。



デザイン:石ノ森 章太郎
生涯学習のマスコット「マナビィ」